

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1272201086		
法人名	NPO法人 ライフサポート永楽台		
事業所名	グループホーム そよ風SUN		
所在地	千葉県柏市永楽台3-4-2 (電 話) 04-7167-8783		
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月5日

【情報提供票より】平成21年2月20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 11月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	14 人	常勤	3人, 非常勤 11人, 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷 金	有(円) 〇 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有)300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	(有)/ 無
食材料費	朝食	380 円	昼食 580 円
	夕食	850 円	おやつ 190 円
	または1日当たり 2,000 円		

(4) 利用者の概要(2月20日 現在)

利用者人数	7 名	男性	2 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 69 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	在宅・訪問診療 丹野内科・循環器科
---------	-------------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に「グループホームそよ風Sun」がある。民家を改修した施設で、手すりやテーブル等を手作りで設置しており、高齢者に合わせた施設作りがなされている。リビング・居室等にパネルヒーターや扇風機を設置し、適切な空調管理がなされている。趣味・特技を活かしたレクリエーション・ボランティア訪問・施設行事等が行なわれ、入居者への楽しみを提供している。地域住民や地域のグループホームとの交流が盛んに行われており、入居者の生活の活性化が図られている。医師・看護師に24時間連絡が取れる体制の構築を始め、医療連携が充実しており、適切な医療支援やターミナルケアの実施に取り組んでいる。家庭的な施設作りに取り組んでいると共に、手厚い人材配置により一人ひとりのニーズに沿った個別支援を実施し、入居者がいきいきとした毎日を送れるよう職員全員が努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価にて挙げた指摘事項や反省点においては、職員全員で話し合いを行ない、適切な改善を行なった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価においては、職員と相談しながら管理者が作成している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	柏市包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、近隣町会代表、地域住民、職員、入居者家族等を構成員とし、4ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。会議では主に、活動報告や行事予定の告知を行い、施設理解の促進に努めている。また、会議にて参加者との意見・情報交換を行い、サービスの質の向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時に意見や要望等の確認を行っている。また、家族に意見・要望シートを配布し、積極的な意見・要望の収集に努めている。挙げた意見等に対しては、職員全員で話し合いをし、適切な対応を図っている。契約が終了した入居者・家族にも意見を聞き、業務の改善やサービスの向上に繋げている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	散歩の際に、地域の方々と挨拶を交わす関係作りがなされていると共に、近隣住民が気軽に訪問してもらえるような施設づくりに努めている。地域の町内会や老人会に加入しており、事務長が町内会副会長を務めている。町内会・老人会の行事や活動には積極的に参加しており、地域との交流を深めている。また、施設行事等には近隣の方々やボランティアが訪問し、交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境」「安心と尊厳を守り、快適な共同生活」「健康な暮らし」を主眼とした独自の理念を掲げ、利用者目線のサービスの実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員全員に配布し、会議の時に理念の確認を行っており、職員全員が理念を意識したサービスの提供に努めている。また、事業所に理念を掲示していると共に、運営推進会議の議題に取り上げ、地域や家族へ理念を周知している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩の際に、地域の方々と挨拶を交わす関係作りがなされていると共に、近隣住民が気軽に訪問してもらえるような施設づくりに努めている。地域の町内会や老人会に加入しており、事務長が町内会副会長を務めている。町内会・老人会の行事や活動には積極的に参加しており、地域との交流を深めている。また、施設行事等には近隣の方々やボランティアが訪問し、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果の公表後、職員全員に内容を周知すると共に、反省点を話し合い、サービスの質に向けて改善に取り組んでいる。自己評価においては、職員と相談しながら管理者が作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	柏市包括支援センター職員、町内会会長、民生委員、近隣町会代表、地域住民、職員、入居者家族等を構成員とし、4ヶ月に1回運営推進会議が開催されている。会議では主に、活動報告や行事予定の告知を行い、施設理解の促進に努めている。また、会議にて参加者との意見・情報交換を行い、サービスの質の向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常業務における相談や情報交換の為、相互に訪問する関係作りがなされており、サービスの質の向上のための連携を図っている。柏市グループホーム連絡会の理事を務めており、連絡会を通じて市の担当者との積極的な連携を図っている。また、市からの寄付品の贈呈、パンフレットの設置等協力体制も構築されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の状況や金銭管理等の報告を行っている。また、毎月手紙と写真を送付し、入居者の生活状況を詳細に報告している。日々の生活状況に変化があった場合や病院受診があった場合は随時家族に報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を設置していると共に、家族の面会時に意見や要望等の確認を行っている。また、家族に意見・要望シートを配布し、積極的な意見・要望の収集に努めている。挙げた意見等に対しては、職員全員で話し合いをし、適切な対応を図っている。契約が終了した入居者・家族にも意見を聞き、業務の改善やサービスの向上に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、常勤職員の退職は無く、人材は安定している。入居者に合わせた人材を採用し、入職後にできるだけ早く馴染みの関係が築けるよう配慮している。幹部職員は、一般職員からの意見・要望に傾聴し、働きやすい職場作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修においては、必要に応じて参加している。研修参加後は資料を職員全員に配布すると共に、ミーティングで報告を行い、情報の共有に努めている。柏市グループホーム連絡会では定期的に研修会が行われ、積極的に参加し、職員の知識・技術の向上を図っている。また、内部研修にて、看護師による医療・健康面のアドバイスや入居者ごとの対応方法の勉強会を行い、職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事務長が柏市グループホーム連絡会の理事を務めている。連絡会では交流会・合同行事・研修会等が行われ、情報交換や他施設の職員や入居者との交流を図っている。また、柏市介護支援専門員協議会にも定期的に参加しており、情報・意見交換を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学を随時受け付けていると共に、希望があれば体験入居が可能となっており、施設の雰囲気を理解してもらったからの入居を勧めている。入居後は、生活歴や意向に配慮したサービスの提供を心掛け、信頼関係を深めながら、できるだけ早く施設に馴染んでもらうよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の希望や能力に応じて生活活動を共同で行っている。日頃から職員は入居者を尊敬し、生活の知恵や人生経験を学んでおり、相互に支えあう関係を築いている。また、家族との外出・外泊・一時帰宅を通して、家族と協力しながら共に支え合う関係も築かれている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から意向や生活歴を聴取し、記録している。入居後は日々の生活の中において本人の意向や希望を随時確認し、申し送りノートを活用しながら職員への周知を徹底している。意向の把握が困難な場合は、表情や生活歴等から判断している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画においては、会議にて話し合い、計画作成担当者が作成している。必要に応じて家族にも会議に参加してもらい、本人・家族の意向を反映させた介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、介護計画の見直しを行っていると共に、生活状況に変化があった場合や必要と判断された場合には、その都度見直しを行なっている。見直しにおいては、会議にて意見を出し合い、計画作成担当者が作成している。また、家族に意見・要望シートを渡し、積極的に意見・要望を収集するよう努め、意向を反映させた介護計画の作成に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の希望に応じて、買い物や馴染みの場所への外出支援を行なっている。出張美容や行きつけの理容店への付き添いを実施しており、身だしなみの支援を行なっている。また、入居者の趣味に応じて地域の活花教室や麻雀クラブ等に参加している。また、家族の了承を得た上で、馴染みの人と合う機会を設ける等、入居者のニーズに応じた柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望の掛かりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて職員が通院の付き添い支援をしている。定期的に内科・歯科往診が定期的に行なわれていると共に、必要に応じて訪問リハビリも実施している。また、看護師の職員による適切な健康管理が行なわれている。入居者の入院時や必要時に円滑な連携が取れるよう受診状況や日々の健康状態が詳細に記録されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の看取りを実施しており、同意書に施設方針を明記し、家族に説明の上、同意を得ている。重度化や終末期においては、協力病院や家族と相談・連絡をしながら本人の希望、意向にできるだけ沿った終末期を迎えられるよう支援している。また、往診医・看護師に24時間体制で連絡が取れるようになっており、緊急時や重度化における協力体制が構築されている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については、所定の場所にて管理し、個人情報保護に努めている。また、入居者に対しては、接遇マナーを徹底し、さりげない介護の実践に取り組んでいると共に、トイレ、入浴時のプライバシーの重要性を意識し、職員に配慮するよう教育を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を定めているが、一人ひとりのペース・要望を優先し、自由な生活を支援している。要望を言い出せない入居者に対しては、会話の中から要望を汲み取り、好みや生活歴から本人本意に検討し、その人らしい生活の支援に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備から片付けを共同で行っている。献立においては、ボランティアの栄養士が作成している。定期的な外食会を企画・実施していると共に、行事等の特別な日には、松花堂弁当箱を活用し、入居者の食に対する楽しみを支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じて回数・時間等柔軟な入浴支援を行っている。また、体調や希望に応じて清拭やシャワー浴を実施していると共に、看護師が訪問した時は、足浴を実施し入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否に対しては、タイミングや声掛け等の工夫により、無理の無い入浴の実施に繋げている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事等の生活活動においては、希望や能力に応じて共同で行っている。カラオケ・塗り絵・俳句等の趣味や特技を活かしたレクリエーションが毎日行われている。また、ボランティアの訪問が多く、外部交流も盛んに行われており、入居者の楽しみ、気晴らしを支援している。その他にも、嗜好品の提供・行事の実施・他の施設との交流会が行われており、入居者の生活の活性化に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、近所のスーパーへ食材の買い物や水汲みを日課として行なっている。また、地域の神社への参拝や散歩支援が行なわれている。定期的に行事が企画・実施されていると共に、柏市グループホーム連絡会での合同行事にも参加しており、様々な戸外活動を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中の施錠は行わず、入居者の自由な生活を支援している。一部の居室のみプライバシー保護の為、鍵を設置している。センサーや呼び出しベルを活用し、入居者の把握・安全確保に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時・緊急時の対応・手順マニュアルを作成し、職員への周知を行っている。定期的に消防署の立ち入り検査が実施されていると共に、避難訓練・避難経路の確認が行われている。訓練には、近隣住民も参加し、災害時・緊急時の協力体制が構築されている。また、非常時の持ち出し袋を用意し、災害時の備えがなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ボランティアの栄養士により栄養バランスの取れた献立が作成されており、嗜好や能力に合わせた食事提供がなされている。食事・水分摂取量を記録しており、摂取量が不足している場合には、栄養補助食品等で必要な栄養の確保に努めている。また、必要に応じて医師・看護師と相談し、その都度適切な対応を図っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の常時点灯すべき灯り等のスイッチは入居者の目に触れないよう、高い位置に設置されている。リビングにはカラオケ設備があり入居者が楽しめるようになっている。また、玄関やリビング、廊下にパネルヒーターや扇風機が設置され適切な空調管理を行っている。ウッドデッキは日当たりが良く、ひなたぼっこやお茶のみができるスペースとなっている。段差には、滑り止めテープや目印が貼られ転倒を防いでいる。階段の手前には、呼び鈴を設置し、入居者が階段を降りる時の安全面に配慮している。また、ガスは一切使わず、IHコンロやエアコン、パネルヒーターを使用し、火災の予防に努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の希望により馴染みの物を自由に持ち込む事が可能であり、居心地良く生活できるよう配慮している。居室内に物干し竿が設置され、個人の洗濯物を干せるようになっている。全居室にエアコン、パネルヒーターが設置され適切な空調管理がなされている。居室の入り口に暖簾を設置し、プライバシーの保護に配慮していると共に、一部の居室に赤外線センサーや呼び出しベルを設置し、入居者の安全を管理している。		